川越名所記

中

武藏

三芳埜名勝圖會中之巻

櫻齊中島孝昌輯著

武州文書村
柳下東太郎

河越市之事

毎月九夜　二六九之日也

河越市ハ元亀天正ノ頃より始て市を立さしめたるハ西條
慶安ノ頃ニ立ひ始ル市町北町高沢町南町江戸町ノ頃
出也連雀ノ人ハ若ク市ハ若ク商ノ　御入國以来月ニ定ル日
市町　若ハ市若ク商ノ
也ハ　御城下繁花ニ随ひ川の市町ハ唱ル来る
札之辻　御高札有ル小仮ニ御制札ハ云市町高沢町南町
中町ノ四街ノ巷ニ仮ニ設ル所河越ノ中央ニ位ス　係る四方
への行程ハ是ハ斗ノ江戸の日本橋ノ如ク

薬師堂之旧地　本町中程南側ゟありしハ何れの所や多賀
町奈川けふ里薬しくハ多賀町常堂まての堂下よりしハ

稲荷祠　南側ゆへ裏にあり実ハ南より西の裏に有之様
本之抱屋敷之内ゟ出所ハ多賀町新町の道行て本町ハ
同心町ハこの直道行しもの也とここ

加藤下氏　当町の旧長ニ而数代庄屋ニ而候其先祖ハ役
の辺迄の大家(やしき)ニして年ニ貢米之役ニ役を司まつ今ハ河高邑
の辺ニ郷(ニウヤ)保ニ而ハ年貢米請取ニ役候加藤下何ニ而在書
し請取書所持の百姓有りしと云

奥(コヽニ)文　寛文十二年十五日　河越御城中ニおゐて連歌の御
会有りし節ニも

夢想之連歌

玉の緒りうつらふ糸の御注連縄　但馬守源朝臣
目も天の川神垣乃しめ　長政
紅梅のにほひ栄ん春待に　小瓌
こゑやうの色まて露の村竹　甚三
暮山の嵐を静かさ朝朗　以年
霞りのきよふ日影さやかなる飛里　徳基
晴地まてのきさかん百舌　玄井
花いはへの露し桜のもとにあひ　貞次
うつらふくも都のうつも遠きこと　忠宗
たかちの出清き祥の地調ふ　執筆

下略

保長寺信綱侯〻婚姻信輝侯〻養嗣〻内殿内なる
信輝侯〻別〻家見る所なる第法家なり内城〻中〻
なり元禄七年古河へ移封〻〻〻
古賀加藤下氏　今〻加藤下氏の祖〻古賀〻書以称〻古賀の
ムラ
女也　玄井ハ井上氏なり〻南町〻玄孫〻恵玄清〻系図
系〻云　福島〻姓氏〻詳〻沖原〻法名ハ沖原道家ハ沖原〻
模本氏　本国〻紀伊国の人〻井沢本板本中〻〻慈性
三堂代国なり〻天文年中河城主なり仕〻〻十年代
なり及んで家古〻三代目孫左衛門ハ天満宮正中〻中〻源〻
吸信〻幸る寛永年中孫左衛門家作を為て大立鏡
て祥寛の板本の丈ケを演ずるなり切〻也〻孫左衛門

発〻ハ第日加藤家家老南光坊〻法元〻第家古加〻
の事を語り〻れ〻て演ずる石丈を一度〻国の面〻
家〻模を法〻〻〻立へ〻〻家を考〻法〻祖古潟〻
加〻作を〻れ〻孫左衛門大〻恢び喜〻模を法〻
建事利今日家作の作ハ〻史実なし
博識唐徳〻当意即妙う信貴〻〻　板本〻〻演信氏の序板れ有ト云伝〻
安西氏　安西模本氏〻当〻〻石光寺如来同帳〻〻〻
西氏　寛保元年天明元年有り信家〻同帳例ハ板本氏ナ〻
一名　唐人小路　大道寺源左衛門　唐人小路ト云　唐人小路ト云
由緒ハ詳今大道寺〻稲快〻江戸町次郎氏ハ指〻
当出所〻〻大科小科〻〻家記ハ有〻知方ハ〻〻〻〻
也〻疑〻ハ藤町〻〻内藤〻〻〻ハ〻〻〻

中ごろまでは柳沢侯の時町奉行を四番組組頭
及び町奉行江戸町代東側を分治し柳沢侯
かつて定りし所二間半甲府柳町屋敷の正方なり
裏宿　昔々甲宿中ごろ分割し裏宿の名あり
鏡稲荷　小沢町稲荷参る　裏宿東側中程に有
諸人参詣を至て霊験を顕す伝る稲荷中ごろ
又新田家代の高山庵跡の墳墓を祭る稲荷の祠
を建る中ごろ云伝あり年暦分詳 但記も亦明疑
庵ヶ谷古地の百の跡丘の古墳あり祠の傍に老樹の
榎あり大さ半を過ぎ枝葉繁茂して漫々九
三百坪あり及べり世俗昔と伝ふ榎中ごろ云家暦年中
荒の為に枯たりとも伝ふ此地と業林なく下毛の人此
業林なの四地なるあり依て名あり
古保稲荷　昔遠藤四郎云人の屋敷あり分思議の霊験
あり勧請す今裏宿行所稲あり分や分祀
大河内氏　第蹟　裏宿西側中方代官町小町と称る
大河内氏　大河内氏　金三郎俗名八郎兵衛松平伊豆守信綱侯ニ家文分　天正
慶長年ごろ紀伊国ニ所代官に任る代官町の名を名付る
宮ごや　裏宿小門の稲あり南八元金所ごや江戸西八代官町
江戸除ごこ名称文の小ゆて御武家町方
徂徠寓居之蹟　宮ごや江戸町方家南ごこ西
ごこ柳沢侯ごに時徂徠先生江戸方来て暫正居

藤町　昔此處に御藤棚有り故名付る云

御屋敷（イケウス）　藤町南側にて元禄年間迄有せし所寛永十八年

御樹木屋敷　数樹を植置たる如き

天正年中酒井河内殿二州諸法院を此地に移さる慶

長十二戌申年上長厩橋に移さる時諸法院も厩橋に

移さる其後御金蔵酒井伯耆殿御妹君に伝時貴泉

寺南湯山源昌寺を寄せ移る御息譲渡殿寛永

十一甲戌年芳州山溪上移対し時源昌寺八幡屋村川

端各村八反の内譲渡殿の須地に移る伝に成り

源昌寺に伝々末寺に成る御樹木

源昌寺伝の寄地を府川村内に移し七反五畝四分五厘松々杉杉

ゆて七反五畝四分五厘地を寄附せり

花畑場　昔々畑場に秋元殿に御時に寄安吉と云者有

代官町　天正慶長に代官大河内氏に門前方此名付る

天正酒井殿に寄附る御妹君に村

に領に貢米に御藤棚今の藤町に代官に移る御

奉行に地方御役人方此屋敷有り寄附中云

鍋屋敷　代官町今慶安に成る諸人家に如此入り村失沢氏に先祖を

立て川に村に移る寄に沢所に伝に沢所御用地に寄地

田村に寄地を伝に酒新田と云成る入り村に移る

喜多町　札に辻に北方に北町に云昔八幡宮に寄附

つ多

町ニ云東西ノ寺ニ為ツ云ヘ所ニ多町門前ノ家ニ造
リ出シ申ス云ヘ所ニ西町ニ申ス下町ノ冒ノ坂ト東ノ方ノ坂ニ云

青鷹山慈願院鹿游寺

開山鹿菴長大和尚　曹洞宗　本寺長谷寺那根村天寧寺末

天正元癸酉年六月ニ当寺

開闢ハ天文十七年戊申八月廿日大道寺駿河守大檀越ニ

ヲ以テ建立ス

江月静清大居士　大道寺上州利根郡白井城主

本尊　薬師像ニ釋迦

脇侍　達磨　大権

開基　水雲尼尊　大道寺殿　宝永年中火災ニ遭ヒ建立ス

堂内ニ安置ス当時ニ題元和尚新ニ云ヘ風雨修復ス

ニ為ス故ニ相模国大住郡ニ一ノ柱ト称スル人切ニ成ル

ヲ和尚自ラ鋸ヲ揮テ中ニ一ノ柱ト称スル人切ニ成ル

ニ付ス後ニ成テ破損修復ノ為大ニ成シ　当大円禅

道場ニ時来養ノ事発生門ヲ建ル時　帝厳覚阿

ニ成ル四門新高ニ成ル必風ノ為ニ破損ス即人ヲ切ル

ト和尚ニ申ス大立切ル人ヲ切ル如ク風ノ

為ニ破ル申ス云ヘ人ヲ切ル云ヘ和尚慮ル

方ニ　禅堂　阿弥陀観音　千躰地蔵菩薩ヲ安置

鹿游寺ト云フ額ヲ　勅作　東京遠書　青鷹山　同書

寺　宝ニ人受領ス　同聯　厳南

寺　用ル所ノ物　随所

寺　光明寺　同聯

一宮宮鎮守諫鹿佛　宋宗書

平地生塵爲殊人

題佛場　宋徳山無準書

撞樓洪鐘一口明和元甲申年古鐘を鑄沒て怒如也

鐘銘曰永福西山禪師之撰　孤峯和尚代

古稽耳聞不似心聞好可惜乎打爲兩橛夫心外無

耳耳外無心豈唐心耳兩已哉眼耳鼻舌仏事

舌耳爲意唐仏事六根互用諸塵同參豈名圓通佛子誰不

參熟哉武州河越青鷹山廣濟寺現住孤峯刀生丁卯和

甲甲秋新鑄大鐘纂籠樓上乃欲鼓聞圓通門廣令法

界君生入妙音三昧之弘誓也可最隨喜頌。託豊後曇

亮見乞其銘爲銘云

武之山田青鷹山邊巨鐘新鑄樓上高懸茲記法

族乞銘老禪紹隆三寶大事因緣揚一杵响同

十界眠說却前吉入句中玄廣濟功徳絶言

詮普門三昧圓通通圓

永福開山西山和尚八辯八瑞方寸而山若州之人又今村

氏入道寄珍本八豊後大友源近世之裔母八牛爲氏女

天和三癸亥仲冬五日生五歳ゆして佛を念一八歳して

書籍を暗誦一十四歳ゆして能

詩文章を作る十六歳の時自ら髮を剃て出家を肥後

慈幸乃法長院と遠和尚と弟子なる時和六年八
拾七歳にして遷化せり寺と廣濱寺と編書数百
巻近世智識類聚と頃徳川家之家廟也
金昆羅祠　稲荷二祠　白山祠　三峯祠　中有
嗔婆(シャバキ)々塔　門内北之方に有
元禄元辰年土州藩の浪人何某由緒ありて山町に来
り住居する時男子一人女子一人有しに
此男子に何人か言置しかと子孫なりと云人有
ふ思議の思ひ想と成りし家の門と云り其子孫
の石塔何かなり比丘尼にて石塔

之ありて石碑にて俗家の墓地なり廣濱寺
の塀内の稲荷一面巳年建立なり山石門嗔(セキ)嗔(セキ)
法然上人の弟子なり法名嗔(セキ)平宗と号す第一
第中仏像世俗と嗔(セキ)嗔(セキ)と云土州と嗔(セキ)嗔(セキ)
神かはしまして此神の祭礼一月中ゆへ云俗流
月毎に参詣の男俗の勝負事なり但世家さのも
長徳院　塔中門内二有　寺号長松院南町　長松院　本町坂下町俗称延命寺と俗唱
坂上町　横金表右　此所ゝ若ゝ宮ゝ町浜地場ゝ表多町ゝ通ゝ
坂下町　御長屋　但一出ゝ有
唯心庵　表多町天満川の渡ゝ有　市濯榮園ト云

此所元来柳沢侯の藩中山東中市庵と云人の別業なり
此人風流にして器物を好み奇石を好み奇石を国内に
と搜し得たるの好事奇石を集めし搜し出すことを
若し甲府に旅行の節山東庵を訪ひ
と唯心と云俗称なる百姓の庵にて
のみ保来たりたるなり又小町紅梅の風俗の来歴
十ヶ所の搜し求めたる面白き面白き勧む者のなり
蓋蘇松杉等の樹木を植へ孫子の為を
又の連山波濤等の眺望の寸景の
眺望云へん方なし 詩歌人情奇を搜し健景を
賞して画

松下茶屋 大谷板谷 宗因

蘇の花を植へられし晴れ
松下蘇他人の門に
初夏の時鳥の鳴
宣みて茶の日和
蘇風下に清の白ひ
白茶や泡立る人の
蘇の蕾開き
雲収微雨晴山遠日暮鐘

芸角

貫明

寥杜

楚茶

板橋汲 芸馨

斗明

雅迪

湘楚水清杜若渡汀蘇
満樹風光白川畫詩情

鳥春昌

三景野外一景亭　敵戸毒苔没徑青避暑
避暑　同遺世源風吹袍宇園庭　楼正庸

志多町　志多町より一区地形低くして下町の名あり
東側神廣小路より北の八宮保寺中下町より出火ありし後
火除の為め築まし　対疆也亦橋の方右の対疆を
築き寛永寺中河原茶屋に命ぜて築き所也
長松院殿　志多町坂下へ行る小側の所に墓石ありて
知られざる墓なり　屋敷
稲荷山称名院東明寺　時宗　藤沢清浄光寺之末
本尊　釈迦　庭園　藤　庭保　遍度作　開山　阿保阿
弘法堂　一遍上人　志多上人　藤沢遊行之二世　開山也　阿保阿弥陀仏二代

弘法堂　本堂之額　野呂氏之書
保紀曰　省繁　採要文
文南寺を藤沢に移りし弘二世　志多上人　入寺九十一代
快見院　師宇永仁年中出世師弟行基に相世
来りし　此所に一小堂ありて信仰する所の仏菩薩
上人と衆数の僧四五人ありて阿保仏と名とする国に
上人誓願　立堂　梵刹　建立
上人と冥山に臨阿保仏と二世　此小堂元来
の如き藤沢阿保寺沢名仏の堂場
と藤沢如来を四尺居体の銅　石の二抗仏
保と称ひ来る　堂の傍に阿保寺墨

のゆり思ひ敬ひて[illegible]
稲の首係なり此[illegible]
阿佛なりと云佛道場なり[illegible]
中て敬[illegible]の思ひとなし此首係なり
主任の[illegible]薬師佛ハ[illegible]
又[illegible]云[illegible]ハ[illegible]

○柳沢御寺ハ昔此域廣大なり[illegible]
村名并に村名なりの村々皆[illegible]
中[illegible]
村小字[illegible]
[illegible]河越市中[illegible]の[illegible]天文

十五年の[illegible]寺にの[illegible]
死亡[illegible]
[illegible]
[illegible]
何[illegible]
首[illegible]

阿保阪

稲荷祠　門田小字[illegible]
[illegible]

末社　[illegible]神祠　菅神祠
[illegible]
鐘　往古[illegible]中頃[illegible]

上人に代宮殿を甲斐国に再び造て勧る所なり

銘文畧　登山川鐵橋者搭　登頂寺　東海道保阿弥陀仏大切侍

拾水庵　東の方つゝみ山側より大瀧に下る仏堂に源宅

うゝしか菩提寺庭作んゝ禅宗なるべし

東照宮橋　赤雪町より入簡村へ流る赤雪川の上流也

当寺吉野寺より多の宮殿にて勧る橋大乃也

入簡村　入ケ村へ入る地名也　勧名を切へ云也

橋なり　西へ道と松山衛道へ云ひ橋なり此の道を通

第衛道なり

神明宮　往古より此処に神清水にて宮殿

なる所なり此所何来神社と唱ひ云ん〻まれ

共神社ハ三人半の石なるべし四方及び地中

地中より掘出す事延宝年間に国衆沼田左衛

之後彼別当より源大宝院へ云修験河内へ来る地馬

場道へ行し先祖へ云伝へなる神明の四地を過て

御来明寺橋乃道也神明山へ名称なる宮居ハ東

方へ来る地を彼の方神宮へよりて宮居を所多

ゆへ神社と唱ひ紙を祖と言み別当へ法華寺

地蔵堂なり此地へ門稲へ行へ別当へ別当を出山宮殿

へ移り当山流へ宮来へ云

或云神明の神形を男根石なり宮殿

伊勢へ神明神秘の所西蜂ハ心の所根ハ云ものなり

男女ハ此心の所行ハ法根ハ所へ以へ神

明へ宗の主なる事必為へ　石表義　石表洗清水畧

重蔵山成就院真行寺　浄土宗
京都東本願寺末
此寺号ハ本町改称ス号ハ何ト云ハ　四祀後矣ヨリ
年歴未詳　寺伝ニ寺宗ニ今僧の寺ニ仏物有
中興開基　真行尼
此寺行尼ハ甲陽ニ武田の姫君ニ云　甲陽軍鑑ニ信玄ニ長女病ヲ為ス
富士浅間ニ祈リ平ス有　其姫君のリ事ヤ
来　岩崎氏行来ニ依把ニ寄ニ道ニ出ル
尼ニ有ニ寺ニ寄ニ廃寺ニ仏物ニ云伝ヲ武田
養ヲ用ル　若山氏　岩崎氏ハ今去見の義ヲ持ニ
ヲ添ルニ菊寺ハ　拝領ス
本尊　阿弥陀ニ立像　其ロ　仏師之作
弘法　祖師御影　師表ヲ一如上人ヲ安置有　是如上人御影　師表ヲ如上人

太子七高僧之御影　御裏書等如上人
雪徳太子雲　門内南之方ニ有
玉椿　東ハ右椿の下ニ有今ハ枯ル　田谷　百姓家有今ハ御蔵中ニ入交ル有
高浜町　此町初ハ行浜ヲ云人部立ニ町方行浜ニ
ニシヲ川しかる浜町ニ　作浜ヲ云ハ行浜右ニ尼所
類葉の人ヲ此行浜民ハ未家田畑新田ニ成ニ今ハ名ヲ
来迎山茶雲院大蓮寺　浄土宗　蓮馨ヲ来
開山感誉上人　第創業暦ヲ詳
成田此方酒井河内様御城ニ時ニ州ヲ来ニ云ハ
三州より　同名の方有　歴橋ヲ　同名の方ニ云
本尊　三尊阿弥陀　庵像　御頸ハ恵心ニ作　御頸ト二　菩薩ハ

別作也

八幡宮　門内西ノ方ニ有　神輿ハ阿弥陀古仏也

鐘銘　蓮馨寺十八世揚蓮社称誉上人　文暁

元禄七甲戌年七月日　部田坂部氏利重　鋳工　小沼播磨守正永

古碑　本堂ノ前ニ有　長七尺　幅二尺

上ニ梵字ヲ鐫ス　中ニ光明遍照ノ四句文ヲ下ニ弘長元年

七月一日ト有　由緒不詳

老樹翁貞陸居士ノ墓　延享三丙寅年七月三日卒　行年百六歳

辞世　うき世のほかまてもかはりの浮てかくまてもこえのまよひなき流

色もかのしやいまも一筋ゆくさき

貞陸翁ハ秋元侯藩中　俗称彦田伝助ト云　其徳つれ

西流ありて　細とよろこひ　著き晴　老人として江戸にありて

須八百歳七ツ子當の川たり　被おゐても　枕(ホンサイ)歳の婦将

御代の戯(シハヒ)場ありて名高く　児女の知る所なりし八　記す

瘞経碑　氷心斎　鷗鯉

其の身寂して　隣西月歌　集

星晴てまた面くゆしはゆくへ

あくの常くふる音や風の知

岸竜やおちきらん　きて筆の跡

此経と瘞の碑は氷心斎　鷗鯉居士の書写して　経を瘞

所なり　居士ハ井氏名ハ璣(キトシ)字士韞(ウン)生涯挿花を嗜

とみ　又月花のいとなみ　佛につくし　経紙に写

寛永十二未年正月十五日卒　友人中島桜嶹松本十国白川居

士等あり　居士の写経を大蓮精舎の境に瘞して碑

を立　法号ハ　碑陰に彫まる自句なり

手向る言の葉くさ〴〵を唱へ侍る 櫻 嘿
碌碍(コクマ)とも云る塚の名 十囲
琴なして柳の糸松たちよりし 全身
鼓楼 鐘楼 老樹二株大なるは門前にあり 一は京深寺
中御門普請乃為に寄附しに此楼の側に風に鳴通
老若男女の風情流しの如くに懐出来りけりゆめなる
老若事の味は実に流すてしゆかしくなり

寿昌山了性院見立寺 浄土宗 蓮馨寺末
當是響寺草創之時此寺を先に建て建立ありしと云ひしを
住んたる事書記 旧地は是に有る境内にあり 六反畑
と云火災の為に焼失せしにより此の地に移せる

開山 感誉上人
本尊 阿弥陀如来 三尊にて 脇士十一面観音あり 秋葉祠アり 本山同し
水村氏 営所の酒長にして営なり大家也故に主客多し
先祖より持伝へ云ふ 家藤の家宝の銘 英訳と弥義ス
長月之茶碗 添へる願 きんひ出 小堀遠江守英訳す 蘆屋釜 弥惣殖傳師へ滑庵也
其外名器 墨跡数品 略之
井上氏 先祖は丹波国笹山の武士なり明智光秀の乳
をけちまち 年々をまちて 愛り 渡りてき時丹波より持来りし刀
細そ文 銘 響上人六字名号 是は上人六字名号
丹波より齎(モタラシ) 来ん 加ありしも外 数如上人宣旨上人十字名
号弥陀 及ス 信る 屋号を国 丹波と用也

六丁稲荷社　吉沢町西側ニ渇命川ニ接ス　沿革不詳

里老説ニ曰　古往武蔵ハ一大廣原ニシテ人食の地ニシテ中古ニ時任関ニ司荒勝リ田園数百町を開くの神ヘ入百郷ニ国荒丘立ツ遂ニテ祠立テ稲生神と祭ることハ太田氏道灌ハ始メ置城ニ時立丘ハ壊テ一祠ニ為ス今此稲荷祠ハ也宝暦十庚辰年正一品ニ神位ニ爵スル所ハ元亨辰年ハ祠瑞籬と言ハ或云今河新ニ立ル所稲荷ハ稲生ル祠ハ新ニ立テ今ハ立ツ丘ニ移ル云ハ此新祠素麺ニ云書ハ古所の訛なり河新七社ニ稲荷ニ云ふ行き流可ふんルを悲と云

六丁神祠記ハ　実因ハ交ニ年言陽ニ重正井上伝韜ニ意富青濱摩撰ニ撰ス

鍛冶場　昔雷流ニ角場也近来廃屋敷立

高河橋

赤目川

入百川ニ村第也

此川竜竜ニ名ニ有ニ上ハ姫路市の道ニ下ニ東ニ流る橋の辺ニ長ニ大サ尺の長ニ信ニ毎年ニ秋の長雨ニ高水ニ成ニ数百坪ニ溢ニ流る事ハ人佐足ニ長ニ行ニ或ニ風ニ殺礼ニ有ル稲ル景色云ハン方ニ姫路ニ来リテ道遠ス来ニ迫来繁茂ニ遊ビテ川潜ル所なり所ニ多ク所ニ赤目川の上ニ住シ居シの道

螢多〳〵云螢ハ礼記にいへる腐艸化て螢
又格物論に螢ハ腐艸の化するなり初蟄
出の時既に光り数多て便宜して往来ふとき活潑
なる生活大異なり夫ほのかなる大火の氣を受て
ハ一名歌光一名照耀事流ハ書と思ふ　劉子南ハ
螢火光と飛〻失と　如〻云

やゝもすれとほのかなる花の香の匂ひ
菜畑もの花や芋のひかりもの　宮重　橘千蔭
女うらさびしきかなしき螢哉　藤宮竜　保阿
花ほのかなる芋〻入日の添うなる　牛菴　心
螢　吹芋
孔文雄

度水来還去傍林晴復明問君天下士誰是似車生
赤間川観螢　寓孝昌
向晩尋原来遍籬蘆蝟〻艸茅〻群螢
光冷頻来去愛此風微月暗天
江ノ渕
此処めゝ寛永年中保田大和守
深尾作左衛門　大久保町ニ伝ス今横須賀町ト云　螢蛍ニ付果ものの氏
支士言深町〻角場ハ
扱と入ものゝ手場なるべし　甚歌
安田大和守殿ハ志州〻の事とて
〜深尾作左衛門　果ハ伊勢国の人

ありし所今はさらに寺となる云ふ道なれは御尾も武士に背ひ承
知の枝折を及ひ頭迄に刻済ス数寸本意を遂ス裏門
前まて行基ひ云字を申して暫切結ひしか石田隊長
尾を切伏せ申さんとさしあたるは逃れ候ひて身を数
ケ所手負ひ菩提所見る事迄打取切腹を申け
たり此寺に保見康周石おる出田ら行て其跡を残す
ありみなひら済申すあり

石坂町

小久保村当寺より此処に旅君を脇に来り家を渡し

高沢山妙智院観音寺　天台宗東叡山御直末

中興開山権大僧都長誉法印

本尊正観音　御長七寸弘法大師之御作

寺記曰往古此尊像ハ空海の発佛なりしか康因行師之時
當堂の事ありて大沙弥く家々正陽しありひ此尊像を本世に
信仰の為此所に移し安置す其後何れの年や篠田ニ住ける家
ニ云武士（なお先祖は元は西国の中より篠田稲荷の来る者なる所篠田ニ住の勝を行り）世経ることを存けるに此
観世音、祈り悲をなし以祈りし其後男子出生せしに其外
種々霊験ありし深く此尊像を信し奉る尓以来忽諸
人種々の説を紹する霊験の新たなるかゆへ中古明
暦の頃の寺々あり此辺に古き堂の本山たりしか若丸の
为り荒廃して僅の草堂に同し大日如来観音をさ
祀りしを寛永年中高沢町に小村氏実藤大權御く
祈り長誉法印に心を当天台宗となし東叡山に御直末
となし諸堂及庫裡ま迄重て建立し正徳年中慶

佛法僧〻妙智恵〻東叡山〻元祥也

惣門　仁王門　金剛神　安置

撞樓　鐘　陽文字　撰英文元祥僧正佛印之撰

享保七壬寅年　仲夏日　鑄主　矢沢集人藤原行秋

武蔵高麗郡下広瀬村住　西沢　惣中

弁財天祠　稲荷祠　天神祠　疱瘡神祠

大日堂　大日如来　如意輪観音　不動明王　毘沙門天　中古仏来流之時之本尊也

百体観音堂　本堂　堂ノ内〻山〻西国板東坂東　又百体也

仏堂〻本尊出山成道釈迦　天竺仏像　獅〻岩木　是像の元作

法名　宗寿　義〻明　如也　自筆ニ而

厨子〻裏ノ書〻曰

仏成道釈迦仏　仏蓋天竺所彫造而唐僧大眉持

所来渡　宋〻未曾有之尊像也　大眉ハ　釈尊之祖　釈尊之

不山〻山ハ　之画写虚　先又松悦得　之画写虚　安奉　家

宝堂　以浩　香火之間　已久矣　今茲　壬辰之冬　諸善男女　新

刻観音百軀　於高澤山殿宇　既成　予謂如此　諸像

自安　吾家堂　安置之　百軀中尊　助吾二親　冥福

亦使人永浩勝　孫則其利益不可測也　因為附

仏像　且書其志旨　於龕後　以告後代者

正徳二壬辰年十一月十六日入佛　武蔵河越住奉三宝居士

水村法名工門尉　法名寂宗賢　宗賢誌

百躰観音堂之縁

六年　端生　設　溺深泉　宝号　仰　釋情

一旦　投機　掀　艶大地　善　利　思

江戸　七十二歳　年一二

偏水獅子之事　　毎年三月十八日観音祭

獅子舞　三人　長三尺偏水摺　九人或ハ七人　山神　一人

猿田彦　其外年ごとに新しきを出し　長年の服

鶴　　さゝら摺の形獅子舞の唱歌筒の如き

いふゝ古服也　田楽の餘風なるべし

獅子利〳〵　風の抑や偏水摺　群馬郡

袋町　　此町引寄せ袋の如き家にて訳云

真法院　富山後鶴之宮院御末

号ふ遠ふふ動者

本尊不動明王　御長三尺七寸

富山〳〵　理源大師之作

富山〳〵弼殿南ハ猪野之辺ハ高地にて高地也兼

是ハ差腐ゝ也ハ高地の橋限之攀上支配なり

水車　　宝永二乙酉年　天保仁右衛門なる者山部上覆下云

長久山本願寺　法華宗　身延山久遠寺末

岡山　日長上人　久遠山感応寺末

中奥岡墓　日春聖人明暦二丙申年八月十三日入寂

此方祖ハ江戸谷中感応寺末にて奴なる者高なる　七世

日容上人ゝ時甲斐国多延山末寺なる

本尊二尊十界曼荼羅　清

沼畑高祖御影　宗門神書の軍

撞鐘楼門　あ山ゝ中焼失

鐘銘云　謹奉撞鐘法界現前二世諸願成就如

延宝二乙卯年十月吉祥日　諸撞就一法

富山五世　日勇上人

沼工

中沼二宮左衛門尉藤原重政
同氏摂津守藤原正成

春神宮　本堂之西に有三十番神　英　四天子月天子

明星天子　摩利支天子　安置

稲荷祠　書山地之神　鷺大明神祠　疫癘神と書後之神多

鎮城天祠　七面大明神祠　共方丈庭中に有

塔中四ヶ寺　七之塔東潮塔　高岩塔　因幡塔

蔵海和尚　因幡塔に住居　未知誰作之事

此祠仏に祖沙ハ元来松山城之内因幡守天正四年の事

歴代の寺僧中天正十八庚寅年松山城滅亡之後

之長沼行秀義頭して　河辺より移し　因幡村に住居仕

号保分因幡塔　初ハ御厨なと打をいう

討て高祖て御影て知る者今ハ御厨なる間、演説

のなりなられて人て号墨のゆりもひ本堂と人面宗旨

号お深て敬をを祖をとみ波厨なと寄て言祖て御像

をを作て祖号保の演説の者を守若或ハ ふ色て慶

意とは或いふことの天祖をまもかも 去ハ去世人演説を

祖沙とゆもる宗て号代の宗像尼作ハ ハ

愛宕祠　石本町南側中程に有　号ゆうて年中再興の

雀宮八幡宮之四地　小久保村石本て先秩父街道之一丁程北の

四国之中に ハ方丈祖と地形一様ハ

川越て記云上果　城ゆう西て一ちの社地有むくらかたくう

まれり　社頭をひとて ちりて 和光同塵の法

孫も ハ ゆう なるて人 とて ちまハ字

作八幡宮を勧請せし宗廟也　中略　此處昔ハ大社にて
ありしか兵乱に廃し世移りてハ田圃の為ニなりし
か近世に至り何頃よりか此御社を今の小久保へ移
したり今ハ向小久保村の鎮守ハ八幡也

江戸町　古ハ名東町　此町昔ハ江戸街道にて往還也故に
自然と江戸町の名称となり　扨又今ハ此街市中第一
乃繁昌なる所なりし故江戸町と唱へ今ハ東町と云

次菊氏　昔より江戸町に住し家古き大道寺殿御
この書類返不持す然中元禄六年癸酉十一月廿八日
大道寺殿御繁昌の字を名家に次第新左衛門へ譲りし
書付ある又次第新左衛門ト親子名前ハ有るもなり
此新左衛門新兵衛を親子に分て説あれど是ハ
らで以来は家なる家業なり新左衛門家ハ今猶此に住

新左衛門家ハ今に猶なしては江戸町(マチ)の保長(ナヌシ)也

裏店之事　江戸町西側に裏店ありしかし元禄元
中青木古庵と云人の記にも伝へて御代柳沢侯御代之

大部屋　江戸町東側横町なり　稲荷祠　昔より有り由来未詳

多賀町　元来桶師商売の町なれとも今桶(タカ)町なりしを以
桶大工を渡流を毎年此町に住む諸役ハ免許之

春日清七之事　荘に湯屋清七なる者あり母に仕て
孝を尽し冬ハ寒さの宿に母の為に我衾(フスマ)を
温めて後之を着せしめ夏の暑き日に蚊帳(カヤ)の中に団扇
を持て母をあをぎ涼ましめ清七六十(ムツヂ)近くなれとも母に
事ふる事初年のごとく毎に母の命を敬ひ

て事を勧む其如存

大寺之廟〻造〻天明二壬寅年函嶺七生涯
函技拙筆ふ小毒〻〻人のりひ存〻大なるを和
濱明主流を存〻仰ぎる時ハ必存るゆ〻仏道を風
子載〻ほまて〻も 輝〻〻〻〻

伯波中宮未
天台宗

瑞光山醫王院薬師寺

開基 観智坊 元和九癸亥年正月吉日
院号山号ハ元禄十丑年 光許
山号沙毘醫ハ加州南側中程ゆ元和
中酒井備後殿〻函時分〻地〻函〻一堂剃〻
ちて〻ちまちて〻今の地ゆハ殿中除ち分ち国ゆ

本尊薬師如来 立像長卯尺斗 行基〻御作 紹士日光月光
紹槍十二神將 聖徳太子 青面金剛未 如意
庚申 塔 聖徳来〻侍〻有 稲荷祠 合殿屋祠

時鳴鐘 三重之楼門之上〻懸る 江戸時〻漳〻置〻
ゆ〻ちを破壊〻及ひ〻を 第窓来中伊豆殿〻時再〻
鑄没ゆ〻 泥〻曰

武州入間郡 河越城下

時鳴鐘損壊於是當時城主
侍従源信綱命〻沼工〻新鑄之者也

兼應二年歳在癸巳正月吉辰 沼工推名兵庫鑄之
鐘撞屋敷 撞撞二人位 撞撞聖〻西〻ゆる比地〻元来

建武ニ焼門ヲ焼シ也寛治四世年南町ヨリ始テ西寛
町入口ニ小の角西角ニ有ト也ト云ヘ不ル可ニ成ル事
ハ長谷川源右衛門ニ云人の古津文ニ有
撞撞ニ付令ヲ田畑三反ヲ小町ニ寛一朝ヲ毎月
勝ヲ文ニ集ム事ハ小ヲ町漬ヲ分ヲハ報ニ麦
ヲ上ニ上ケ年ニ麦度江来テ沿ヲ上ル
同心町　麦買町ニ撰丁也寛永年中伊賀屋ニ御
時町内同心十人ニ仰付地ニ成ル小ハ御若宮也
南町　札ニ辻ヲ南ヲ上テ南ヲ上テ新ニ若ハ庚申堂
云今ハ市中ヲ一の繁花有
青龍山蓮寿院　曹洞宗
御朱印　拾石　若ハ時ハ随分也道朱素参和尚ニ代ル

御岡山　府史寺廣和尚　天文廿年辛亥年三月大日寂
神君　天正廣長ニ付　御放書ニ長面ニ入御ル御
御ヲ上ル撫ヲ上ル寺ニ成ル
本尊　寛冠之釈迦　拾士弥勒　観音　或勢至
此本尊ハ義厳法説法座ニ図ヲ
拾士　大権　達ヲ
十六羅漢　石
此十六羅漢ハ山門ニ上ル
山門ニ撞上リ有ル也ヲ
ハ行ル矣ヲ
重ニ沢檀ハ有ル也ヲ
探堂　立像ニ釈迦佛　安置

山門　六地蔵菩薩　世係長五人牛　八百歳溪
山王社　白山祠　吳山の東南にあり
妙見祠　山王祠に合祭す　白八重樫田氏の勧請
鬼門　東面　禁葷酒石碑有　裏門　北西に沢町切
本堂額　三世佛　茅葺　恰如
山門額　願王閣　茅葺　如洋
　　浮屠〻〻　筆者
　　恢濟其霧　叅侵諸佛　壽命
　　長擔毒敵　驀戴列祖　根源
古鐘　本堂之内　沼口
武藏國河肥庄

新日吉山王宮
奉鑄推鐘一口長三尺五寸
大檀那平朝臣經重
大勸進阿閣梨圓慶
文應元大歳庚申十一月廿二日　舟沼久支
鑄師　大江真重

平朝臣經重ハ河邨右京亮重頼之四男掃部介茶重
之孫ニ河邨四郎經重〻〻ハ承元建長年中ニ奴ヲ知ル
文應ハ人皇八十九代亀山院〻〻年号　源家將軍頼副公執
權ハ平重時〻〻文應元庚申年ヲ弘年享和元年

同上元亦百四拾二年之古薩多
寺記ニ曰往古此國彩日右山主ニ社所也薩毛平ヶ
ニ薩多ヶ原ニ山主ニ古祠僅ニ有リ
或説ニ曰此薩ハ上戸山主ニ薩ニ云ヒ或ハ仏波山主ニ
薩ニ云ヒ其ヲ主ニ何ト也ニ也ヲ住ヲ所
東鑑第六曰　文治二年丙午七月大朔丙子廿八日
癸卯　帥中納言奉書到来（京都ヨリ頼家ニ仕ヘ所下下）新日右
衛武藏國河肥庄地頭對捍太々年乃貢
変并同衛長門國向津奥庄武士狼藉事
取庄家解狀被下之早可令尋成敗給之
由被載之云々六月一日之御教書也ヲ

稲荷山千手院若宮ヶ原ヶ山ヶ堺中也
宮巻　淡山梵刹和名　由源氏年西年三月十八日家
常ヲ所彩日右山主社　故ニ云ヒ又彩日之也有ル武蔵国
河邨庄長門国向津奥庄両庄ハ彩日右ヶ社ヶ
寄ヲ事ヲ和名河邨ヲ云ヒ事ヲ彩ヲ巻ヲ彩ヲ巻ヲ
佐ヲ地ヲ所ヲ也ヲ彩日右ヶ社ヶ河ヲ邨ヲ
知ヲ河ヲ邨ヲ　又河邨ヲ彩日右社ヲ
河ヲ邨ヲ　彩ヲ人ヲ鑒正ヲ　佐ヲ
古懐二ヲ年巻ヲ神ヲ河邨ヲ古ヲ事ヲ塚ヲ国ヲ佐ヲ
ヲ古懐ヲ云ヒヲ稲荷祠ヲ神ヲ云ヒヲ建ヲ
古辞巻ヲ須巻ヲ中ヲ有　上ヲ梵字ヲ濁ス中ヲ嘉慶
二戊辰年　源氏一決逆ヲ敗ヲ自由源ヲ洋

本町薬師仏　此像ハ古仏也　昔ハ南隣ニ有寺来ニ澤
稲荷祠　西方院地内神庭中ニ有　依之
稲荷山とも云
誉寿院門前町　昔西方院惣門之左右又ハ裏門ノ巳ノ方沢町ノ裏手
又ハ御厩小路ニ造りし　昔西方院ノ門前なり
識法院　本山修験　号慈照堂　南町ニ有也
本町不動明王　不動尊ハ弘法大師之像　相伝覚鑁上人作
覚範ハ誤り
此慈恩寺ハ天正慶長ノ頃ニハ本町　南側西角ヨリ二軒目
西方院ノ東ニ有ト云　亦小側
河東ト麻生下の間ニ有寺
慈恩寺ハ旧地ト云
先祖ハ同寺ニ家来ニテ守井　俗姓ハ板本氏今本町板本猶悦
ニ慈恩寺ニ守井沢氏板本ノ家ニ慈恩寺ニ持来ル処の
其像也　元和年中ニ今ノ地ニ移ルと云

南町孝子西村氏之事
西村氏ハ家号近江屋ト云

ハ後之孝ニ親ニ事ル日ハ御毛遺ラス事ニ不孝ナリトハ云
依テ秋元侯ニ聴ニ達し　宝暦二壬申年六月御褒
美として青銅若干賜リ行ノ之孝ハ今の西村氏ハ後
之父也　誠ニ孝ハ人倫之大行不徳難道也人ニテ行之ニヲ
ん事以テ可思也

冷月山長森院　曹洞宗
開山　大雄文広大和尚　森多町広済寺末
開基　冷月長森大居士　文禄元壬辰年九月廿二日入寂
大道寺駿河守ニ賜リテ年久しく此処ニ住シテ　俗称大道寺権門　其嫡権門ハ文
壬戌年十二月十一日ニ病死後　文禄元年文広和尚権門ノ
居宅を禅刹トしてなを従号冷月山長森院

東昌　釈迦堂　阿難　迦葉

脇檀　大権俊利菩薩　聖観尊者

鐘　延享五戊辰年三月鑄之　當時山門梅園和尚代

序跋書たる　梅園和尚之　文照之

白山祠　稲荷祠　鎮守　天祠　紀氏清也

朝田山行傳寺　法華宗　池上本門寺末

開山　日山聖人　池上本門寺末

沙弥　釈日永　和尚　中興　沙弥八百久保町ニ住ス

行住ハ廟堂ニ　行住ハ廟堂ニ　今の地ニ移

三尊　行住ハ　四記木像　文殊　普賢　不動　愛染　哭天王　紀氏清也

本尊　法華題目　釈迦　多宝　仏大菩薩　上行　無辺行　浄行　安立行

日蓮大菩薩　龍子田神　脇檀　安置

本堂之額　行傳寺　大明神　白山人陸氏梅岩ハ

門之額　朝田山　紀氏清也　此碑門ニ永和

年中草創時建　門を建て今の地ニ門ニ立ル

〻元亨元年　門内ニ有　稲荷祠　疱瘡神祠

雷神堂　有　稲荷祠

鐘　元禄八乙亥年八月鑄之　十四日　聖人代ニ

功德ニ一結檀越ニ　海辺久右衛門重次　鋳工矢沢種兵

重枝　桜樹大樹　本堂ニ庭前ニ　名樹　桜ニ　銘　保永ニ

切せ〻　桜ニ　題ニ　迷来　桜樹ハ　風の為ニ　たをれ

て今に其本のみ存ス

塔中　愛性院　圓行院　之廢ス

行信寺　門前町　東側ハ東隣寺村分西側ハ行信寺ノ

杉垣ヲ以境トス云々寛永年中此道ヲ開ク

墨池庵　俗姓松平氏世々浜ノ住ス智恵ヲ知テ墨池

庵ヲ結ビ哲学ヲ書ヲ業トシテ立花挿（ナケイレ）花ヲ能クシテ

池之坊ト言フ才也亦能池ヲ名乗リ家ヲ子孫ニ伝ヘ

ヲ以テ自ラ瓢花房尾張ノ人ニ

壽保護　葉（フロラフ）ヲ花ノ深世ヲ是庵ノ弟　瓢花坊

浜浦町　法衣ヲ天文江浜ノ小田原屋敷ノ時浜浦

平井何某ト州ノ外ヲ家ノ家ニ住ス平井ノ舟

ヲ略者ヲ以ノ略工ヲ加ヘ蒙ヲ志ヲ情ヲ始ル十余人皆

同衛ヲ居ル伝ル浜浦町ヲ云今ノ浜浦町ヲ浜浦役所ヲ勤ル者ノ

諸役免許ス

延喜式　浜浦戸ヲ井蓋ノ下ニ従ニ十月一日ヲ二月廿日ヲ書役使ヲ云

金山神社　參神　金山彦命　或ハ天目一箇命

姓氏録云　天津（アマツヒコ）古称命（ヒコトノ）子　天麻比止（アマヒトツ）知（子）称命者忌部（イミ）

祖也　是浜浦ヲ護ヲ祀神也

昔平井浜浦ノ庶民例ヲ以テ金山社ヲ勧請ヲ浜宮

永年中平井乗例ヲ以テ時世初毛乗例ヲ以テ保安中

角右衛門ノ宅地ヲ移ス社ヲ　參稱　毎年二月十五日

芳取ヲ一町目ヲ以テ当ヲ河岸町中通御

浜浦祭礼ヲ参ヲ

自然山宝樹院法長寺　或云浜下モ云　浜宮ヲ宗乗寺ト云ヲ未

[illegible]山[illegible]海法師　天文十八年[illegible]三月廿四日入寂

[illegible]法師の[illegible]法師の[illegible]法師の[illegible]

本尊　立像阿弥陀佛　定朝作

三祖七祖御影　御表書　宣如上人[illegible]御影[illegible]

願如上人御影　廣長十二年[illegible]上人[illegible]御表書

本尊願　像　蓮　上野國　和泉院[illegible]

太子像　御長三尺像　御腹籠御長[illegible]　聖徳太子御自作

奴之墓　[illegible]奴[illegible]墓[illegible]　[illegible]

僕[illegible]　[illegible]加[illegible]

月[illegible]死法名[illegible]加[illegible]生得剛強[illegible]大酒[illegible]

舎衆[illegible]腐肉[illegible]

[illegible]

墓[illegible]

[illegible]

志茂町　此所ハ昔[illegible]場[illegible]

[illegible]町[illegible]

烏山稲荷社　志茂町北側[illegible]祠[illegible]一堆[illegible]

昔西の方[illegible]大[illegible]道[illegible]

方[illegible]入口[illegible]

丹一　素盞烏尊　祇園大明神[illegible]

第二　譽田分尊　八幡大神是ニ
第三　倉稲魂尊　稲荷大明神是ニ
第四　天津兒屋根尊　春日大明神是ニ
第五　猿田彦尊　白髭大明神是ニ

社號ハ曾又正元ヲ成ル年（文正元年ハ明ル長禄元丁巳年ニ）太田資清入道
道灌ハ初メ城ヲ築クノ時　橋ヲ地形ヲ定メ先橋ノ
言ヲ以テ長代ヲ立ケラレ道灌ハ此ノ四方ヲ點檢
シ給フ　西南ノ方ニ當リ繁茂ノ表ハ深ク冨士ヲ
源ト　因テ是ニ人ヲ立テ一枝ヲ伐リ社ヲ中ニ
右ノ如ク祠ヲ建テ　簡守有社前ノ門ヲ開キ給ヘリ
古郡ヲ也ヲ也ヲ也ヲ也ヲ　此ノ事又曰

源家勝平　怨敵退散　子孫長栄
大願成就　当國　郡ヲ　河邊成敗

（第安二年己巳天正月十七日
和ヲ武州爲武蔵ハ後又蔵ヲ門ヲ有蔵ヲ八枝ヲ久保ヲ砂原ヲ此ノ年
平ヲ也ヲ為ル所ヲ河ヲ此ヲ郡ヲ也ヲ郡ヲ也ヲ長ヲ考ヲ可知）
此郡ヲ也ヲ拵ヲ来ヲ道ヲ也ヲ拵ヲ道ヲ長ヲ也ヲ讃ヲ郡ヲ田ヲ是ヲ四ヲ
面ヲ城ヲ成ヲ郡ヲ云ヲ陽ヲ郡ヲ也ヲ　仮ヲ文ヲ云ヲ云ヲ此ヲ郡ヲ也ヲ也
面ヲ後ヲ城ヲ蔵ヲ信ヲ郡ヲ切ヲ蔵ヲ也ヲ又ヲ正ヲ元ヲ成ル年四月十七日文明元年
如ヲ再ヲ社ヲ建ヲ道ヲ又ヲ郡ヲ又ヲ田ヲ陵ヲ切ヲ文ヲ曰

武運長久　怨敵退散　梁ヲ成ル　子孫繁昌
多民自ル　五穀豊饒　別當　正圓院清ル

又正三ヲ成ル年四月十七日　於ヲ太田資清入道道ヲ

右別當清順が相州東海の老人なり太田道灌の老
臣なりと云ふ拾遺記に伝へむ社記に若干考らるべき
清又清順が事明らかなるべし
天正年中酒井侯の御時上方御城に移り田神の有て
和年中迄八社家　神谷何某　三宅主馬之助　社
人数十人ばかりなり　寄進無年　四月　彼の者共町人なり
高山に名八坂文殊堂高山に高多に御城に伝て
高山の名も又河越七社に稲荷社一なるに八親塚稲
荷に玉云里俗の説有

瑞巌庵　稲荷初之傳

瑞巌和尚の山門に赤面地蔵と云ふ瑞巌庵中に
者子石仏之事　石仏安置の事
と製して業として初て又又婦人の者の者
生長して夜毎に苦しみ母の病苦して
夕の部に石仏自分仏けて人なるに沼一流
毎石仏を抱して毎母の元の位置して御毛遠
母の好む食物から高値の不のつて調ん苦しみ
主様の親も毛法へて或夜の夢に明りて仏里
在て出て母りて母と寝て母云々ふ夢いて
見たとて面うて　面白
ものて石仏
空快晴

の如く蓮華の人々累々として花を慎み合掌して
ふい毋の仏なりとて彼の稚を抱き合掌して
しかるに彼日蓮を迎へて南無阿弥陀仏と
江戸へ引き毋云々
ふりかへり見しに一人の法師帽子とかや
ぶ蓮かしこく蓮の男云々
彼の古帽子の元なりしかれ
まことに中食の初めも有りし江戸の稚者をうつたり
ち毋の傍を離れたる時もしらず毋の常とやうに
年久しくうつたへ彼の面を
太守を願ひ奉し天明二壬寅年四月御祈願の御

枝拾采木善女生涯不思議賜うたり嗚呼仁哉

國君　嗚呼孝哉　善助

御花畠　志義町南側之裡蓮華寺山付に有者

寺御用御花畠と称し大立町より入口にあり宝永年中
蓮華寺境内繁花に南方日蓮開基なる加料
花の為にしかるに大立町に入口に始まる寺町
南側山川筋に沿ひ一ヶ知長沢一ヶ知二ヶ知に道を
寺に花園（ハタケ）迄藪中に所々に墓碑を
西町裏に有り今は志賀町裏に地有る

庚申塚　大立町々実当日に有志賀町上に安
庵に延宝年に庚申塚に古樹の板も享保の洪水を
蓮信山妙養寺　法華宗　延山久遠寺

本堂ハ往古法南久保町ニ建立シ妙法蓮華経ヲ
唱高祖日蓮聖人諸国御修行ノ時佐渡ニ尊海御
教山御同道ニ成リ給フ尊海御ニ召ヲ給フ中ニ如
ク来リ給ヒシ一ノ老女帰ニ若宮祖聖人ノ法華ヲ中祖沙
門帰ル帰ル一ツ宮ノ祖沙門ニ弟子教化ス法
花ヲ宣ヒ給フ女ヲ蓮信ニ云ヒ帰ヲ妙法ニ云ヒ
法華ニ行者ニ宅ヲ三宮ニ奉ル一ツ宮ニ迎テ預リ
ヲ申ケタ後業度せしを文七ハ成年日在聖人再
び法華ニ重場ニ蓮信山妙法寺中奥国巻
日在聖人ニ天正二乙丑年十二月二日入寂久保町ニ
今の地ニ移ル年暦ハ深
或云尊海信正仏識ハ永仁年中ニ高祖入

寂ニ信也第ニ日蓮聖人尊海を召ひ一ハ尊海
も来タ仏識ニ面仏識ハ蓮華一時ニ成ル云此
説可ニ成ル

本堂　十界勧請　高祖御影　鬼子母神　如意
三千世神堂　内内ニ成ル
妙見祠　土地ニ庭中ニ在　稲元長　御霊中堂内

鐘

十支ニ成ル器の勧請ニ成ル

楼上懸　序文器　銘曰　日蓮上人代
日縁和合　宝器用成　楼上旦暮
殷々裏々　演説妙法　大夢忽驚
警如寥廓　體性恒清　一鐘発越

無明尼明

元録十三庚申霜月吉日　法輪寺　日孝撰

日昭聖人之代　沼工　惟名伊豫藤原良寛

日孝聖人ゟ御草元改聖人ニ上足ニ弟子ゟ以て博識也

寛保元年日活聖人之時再出造湾汲洗ハ天の明恩

七面社　本堂之坤ニ方ニ上祠ゟ別ニ南之方ニ入口ゟ

此七面大明神ゟ甲州七面山ゟ宮　利生いちしるく来

活ニ人ゟ活ゟ毎月十九之取ゟ自仏家ニ人

来宿ニて賑ニ　末祠　稲荷祠

妙蓮寺門前町　東ハ本町ニ接ル　西ハ境町ニ迄上て

六軒町　景福寺初祖ゟ之人祠ゟ爰ゟ住して

ゟ家六軒ゟ伝ゟ六軒町ニ云ゟ又六軒町ニ云ゟ

と号ハ本町ゟ云ゟ又ハ妙蓮寺ゟ云ゟ

ゟ者の陣所林除ゟ之ゟ号ゟ六軒町上云ゟ松御ゟ

久ゟ御祝　号ゟ妙蓮人家稀ゟ多て賑祝ゟ人家

ゟ世ニゟ中ゟし久ゟゟ祝ニて名ゟ呼祝ゟ

ゟ今ハ何家の裏の稲荷ゟ人ゟ作ゟ家ゟ

六軒町　新建　三ヶ所ゟ

境町　古名　鉄差町　御霊郷厩ゟ妙蓮ゟ上ゟ

号ゟ寄ゟ初ゟ以て御鎮ゟ十人ゟ出ゟ住ゟ故鉄差町

の名ゟ今ハ西側野田村ゟ東側松々ゟ故境町也

法華山妙昌寺　法花宗　此上本門寺

宗山　日意上人

此寺四地ハ西京町中御湯殿如ク也 小袁江戸町本町南町之
三町之袁境ニ成シ而也 天和元年西年今の地ニ引けり
今の地ハ濱場 孫兵衛之云 侍ニ而有なり
本尊 法華経 釈迦 多宝 四大菩薩 文殊 弥勒 観音 四大天王
日蓮御影 鬼子母神
番神堂 本堂ニ南ニ有
辯財天女祠 本堂ニ伸ニ方池中ニ祠有
三面弁才天 此番像ハ往古ニ此所ニ出現ス 神也又弁
才天ニ池番ニ妻殺因ニて此因を作る者の書状ニて病死
せり人ニ為ニて殺て此因を作る者ハ伊豆国
守ニ若を作ニ〜〜ニ帝ニ仕らるゝ者ニ作る者因

ニも云るゝ 扨又 蓋地ニ寛保元辛酉年此
ちゝ芳所〜地ニ出現 番ニ 寄り此地ニ有
ある番せる 弁ニ云る 像ニ地中 乃番ニ有 ニ社ニ喜
み建ちし 寄演 此ちちゝ社ニ此中 社ニ多ニ 芳
花絶ニ 法人の社 歌や
宮ニしうちの沢神の 地ちゝうちのニのさまつる御社 沢ニ 改月
弁ニの影 ニ 鬼子花地の ニ 宗新
社 ニ 此中 盆ニ 松
沢神の恵みニ 此 祠 盆ニ 淑塚
沢不 富士の 眺ニ 地境ニ 四時ニ 美 著 著
ニ 寄ニ 流ニ 突 流ニ 服中 爲 精ニ 客ニ 不

二三詩哥古今あまりあまたあれど僅に二三を舉て
はなはだそのあるのみ

一山高出衆峯巓　岑裡雪氷雲上明
大古若同仁者樂　蓬萊何必覓神仙　羅山

冨嶽

何物芙蓉落日寒　閑中霽迴練雲端
青天一柱崢嶸出　白雲千秋突兀看
雖指仙衣懸縹渺　自疑玉女剖琅玕　徂徠
千今石跡山陰地　喚取驪駒問大丹

又

雲臺玉女号朝天　來指芙蓉帝所施
豈有秦時徐福識　不令漢代少君傳
雪窟闇閭時殊對　日動扶桑曉倒懸　南郭
瀛海瑞祥常五色　三峯高標挹羣仙

又

扶桑第一山　重此對層巓
白雪初陽映　峻嶒霄漢間　蕉中常

萬葉集詠不尽山歌并短歌　山部宿禰赤人

天地之分時從。神左備手。高貴寸駿河成。布士能高嶺乎。天原振放見者。度日之陰毛隠比。照月乃。光毛不見。白雲母伊去波伐加利時自久曽。雪者落家留。語告。言繼将往。不尽能高嶺者

田児之浦従打出而見者真白衣不尽能高嶺尓雪波零家留

萬葉集　不尽山歌　長歌之反歌　高橋虫麿

不尽嶺尓零置雪者六月十五日消者其夜布里家利

拾遺
ちはやふる神も思ひのあれはこそ年へてふしの山ももゆらめ　人麿

詞花
いろしるき山路のこのま時雨しハふしの高根の雪とみえける　大江嘉言

続後撰
帰る雁のこゑハさけるもの跡らひまて霞晴たる山桜のか事　法印浄弁

玉葉
見てもみてもよそにこそ東路や三国をさかふ不二のたかね　前大僧正澄弁

風雅
田子の浦ゆうちいてゝみれハ白妙の不尽の嶺に雪ハ降ける　清輔

同
帰る雁ハ晴行空に跡たえて山のかすみもある白雲の空　惟宗光吉朝臣

新古今
風さなひく富士の煙の空にきえて行方も知らぬ我思ひかな　西行法師

古今集
君をのみ思ひこしちの白山ハいつかハ雪の消る時ある　藤原忠行

同
帰る根のふもとも思ひこそ見えすはあれと雲もえぬ煙を　紀乃友則

同
人しれぬ思ひを常にするかなる富士の山こそわか身なりけれ　讀人不知

土佐日記　貫之
打よするなみさへかゝる富士の根の煙のすゑもみえ分かなるらん　阿仏尼

新後拾遺
駿河なる富士のみ雪の消る日もなき氷室の山の下水　頓阿法師

新勅撰
富士の根も雨ハ雲も空にのほりけるかさ雲のたえまなる白雲　兼好法師

新後撰
晴たる日山郎に五月まて雪ハやまぬ帰しの路をかはらん　藤原長秀

続後拾遺
帰し山雲はれてやまぬなる雪のふもとも遠く富士なる空をなかめ　浄弁

家集
深き人にいはしく思ふふしの山雪のうちにも煙たちけん　源実朝

万代集
舟くもる田子の浦ハの夕ぐれにふじのけふりの空に見えつゝ　宗尊親王

新古今
駿河なる田子の浦浪たちぬ日ハあらしに富士の雪も吹なん　前太政大臣家

光行記行
富士の根の風に漂ふ白雲を天津乙女の袖かとそ見える　光行

略記

御のかゝるときみゆるもひさしき東ふじの白雪　二条 右相府

日
八重霞たちもかくさぬふじの山雲のうへにみゆる梢哉　烏丸 光廣

東紀行
稀なりし高根もさしてはるゝ日は山も雲まに見ゆるふじの根

ふじを見て
人皆てつるならん雲の夕しおもふ富士の雪の曙　流浪人 讀谷山王子

浮嶋が原にて
嶺の雪吹おろす風は一むらくもる浮嶋が原　日

道すがら富士の煙もしつかさりきはるゝまもなき空のけしきて　右大将 朝郷

心せての雪を見て積し梢まで

なほ見む思せるよもの國中さたくひなくて此山ふじの根

見えゆる見える物とせん帰しのやま

富士の山汐走てもなきすさき乱　澁海 大藏中吉

帰し舟添ふ事三保ちかゝる前　信徳

煙る舟帰けす泊しふじの雪　江戸御用使 徳元

見えるる晴やおぼろなる月ふじ二

三帆舟も添ひ飛ぶ鳥から前　言角

いろ葉八千丈富士はふじの霞の郷　洛 嶺島

明月やふじも瀧波しさし添し　冠者

富士流るふじの雪解や春の川　平湖

千秋積雪衡行節鞋底青雲幾萬里六十余州眼前蒋登臨三國一奠峩　加賀竹音逕

432
176